

平成22年度 宮崎県立日南農林高等学校 学校評価

教育目標・・・平成22年度重点目標「厳しく鍛えて、生徒全員の進路実現！」

基本的な生活習慣の確立 → 学校の果たすべき役割と家庭の果たすべき役割を明確にし、校訓「誠実・勤勉・創造」の実現と温かい語り合いのある家庭の実現
 進路の実現 → 早期進路意識の高揚と実現、質と量とで徹底した学力向上、資格取得指導の徹底
 専門教育の充実 → 優れた専門教育でスペシャリスト育成、やる気・根気・元気を育む教育、教師の指導力と人間力の向上
 部活動・クラブ活動の振興 → 生徒に自信と誇りをもたせる、愛校心と仲間意識の高揚

学校経営ビジョン

- 1 生徒が自ら課題解決を図るため、積極的に学ぶ意欲と態度の育成を図り、確かな学力を身につけることのできる学校
- 2 社会人としての望ましい勤労観・職業観・忍耐力を育成し、自己の将来の目標を自覚させ、進路実現を保證できる学校
- 3 南那珂の地域産業の担い手として、地域の発展に貢献するための専門的な知識や技術を学べる学校
- 4 地域や地域産業社会、関連機関等との密接な連携を基盤とした、地域に開かれ、地域に信頼され、地域に根ざした学校

ビジョン実現のための重点目標

- ① 基本的な生活習慣の確立
- ② 進路実現
- ③ 専門教育の充実
- ④ 部活動・農業クラブ・福祉クラブ活動の振興
- ⑤ 教師力の向上

マネジメントサイクル		P	D	C	A	C	A
重点目標	評価項目	数値目標・評価指標	具体的な取組	評価	自己評価	評価	学校関係者評価
					成果及び改善策(課題・反省)		問題点及び改善策
①基本的な生活習慣の確立	生徒・保護者・教職員の認識の共有化	学校、家庭が連携した生徒の基本的な生活習慣の確立(アンケート結果 生徒・保護者は80%以上「できている」と評価、教職員は50%前後が「できている」の評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の全校指導における各部の指導 ・服装容儀指導月1回 ・PTA集会等での学校の現況報告等で保護者に説明 ・1月に生徒・保護者・教職員にアンケート実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様、学校と生徒・保護者との間に目標とする到達レベルに差があった。しかし、全体的に生活習慣の確立では向上が見られた。 ・3年生なので、進学就職試験を控え意識の向上が図られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での役割を親も認識できて、しっかり役割を果たしている成果が出ていると感じた。 ・MRT「わけもん」をみたが、生徒は明るく素直で基本的な生活習慣もできているという印象を受けた。 ・先生方の努力されたあとが感じられる。 ・家庭での親と子どものコミュニケーションをよくとられていると感じた。
	学校と家庭で担うべき役割の認識と実践	学校経営ビジョン(学校経営の骨子)に「学校と家庭の果たすべき役割」を明記し、すべての保護者に説明	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めのPTA総会において、校長が学校経営ビジョンを説明し、学校と家庭の担うべき役割を明確にし、理解を求めた。 ・1月に生徒・保護者・教職員にアンケートを実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でのコミュニケーションは概ね良好であるが、子どもの内面的な変化に気づき、日常的な躾や家庭での役割をさせていく必要がある。 ・自宅学習の時間については、3年生としてはまだまだ足りなかった。 ・子どもの進路や家庭学習、学校行事への関心や積極的な参加は昨年より改善が図られた。 		
	制服の正しい着方ができる生徒	服装容儀検査の1回目合格率90%以上A、80%以上B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、服装容儀検査を実施 ・昨年度は日常的に容儀指導の必要な生徒に、保護者召喚指導を実施したが、今年度は該当する生徒はいなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の服装容儀検査1回目合格率84.5%であった。昨年度の77.5%を上回り、少しずつ改善が見られた。 ・正しい服装の着方の基準を身に付けさせ、自ら正せるよう、日常的な指導の強化を図った。 		
	自転車盗難防止、交通安全の徹底	二重ロック施錠率90%以上A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、二重ロックの日(26日)の設定及び重点指導を設けた。 ・管内警察署との連携により、点検整備指導を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・二重ロックの日(26日)の設定及び重点指導を設け、1学期の抜き打ち検査でつまづいたが、以後持ち直し91%の施錠率であった。2～3名の生徒以外は定着できた。 ・管内警察署との連携により、点検整備指導を行った。盗難等の事件もなく、良好であった。 		

マネジメントサイクル		P	D	C	A	C	A
重点目標	評価項目	数値目標・評価指標	具体的な取組	評価	自己評価 成果及び改善策(課題・反省)	評価	学校関係者評価 問題点及び改善策
②進路実現	望ましい進路選択ができる生徒の育成	生徒全員の進路決定100%	・進路対策専門員及び外部講師による職業講話の実施	B	・講演会は1学期しか実施できなかったが、年間を通じて全校集会や授業等で働くということや社会人・職業人として必要なことについては話してきた。十分とは言えないまでも、勤労意欲・職業観の育成、社会人・職業人としての基礎を培えたのではないかと。	A	・100%という目標には達成しなかったが、課外等の努力の結果がよくできている。 ・残り2名の生徒の進路決定をあきらめずに3月末まで努力して欲しい。
	生徒の主体的な進路実現への努力	計画的にLHR進路学習を位置づけ、実施	・LHR進路学習の定期的な実施 ・クラスの進路委員を活用した生徒への情報提供	B	・LHR計画に基づいた進路・キャリア教育に関する事項を指導することができた。 ・主体的に進路選択ができない生徒が若干いて、進路先決定に困難をきたした。		
	保護者への多様な進路情報の提供	進路便りを発行 進路講演会や進路説明会を実施	・進路便りの発行回数を増加 ・保護者向け進路講演会、進路説明会の実施	A	・進路便りを毎週発行し、内容の工夫をし、進路意識の高揚を図り、保護者や生徒に必要な情報をタイムリーに流すことができた。 ・保護者向けの講演会や説明会も計画的に実施できた。		
	全職員による面接指導、小論文指導の実施	全職員による面接指導及び小論文等の職員研修会の実施	・全職員による面接指導及び小論文等の職員研修会の実施	A	・挨拶・返事・容儀・入退室等の常時指導はある程度達成できた。 ・進学希望者への夏休み課外と継続的な個別指導、面接指導もきめ細かく実施した。 ・全職員で研修内容を活用して、担当生徒の指導に当たる体制を実現でき、受験直前にはきめ細かい指導により、内定達成の大きな力となった。		
③専門教育の充実	各学科の特色ある教育活動の推進	・本校ならではの活動推進 ・定期的な即売会の実施 ・介護福祉士、福祉関連産業への就職、福祉系進学への指導	・アルコール醸造試験、ジャトロファ栽培等本校ならではの活動を推進した。 ・定期的な即売会を実施し、経営的学習を体験させた。 ・介護福祉士としての就職及び福祉関連産業、福祉系進学を推進した。	A	・日南市内の5駅の草花装飾活動、オリジナル焼酎「新しき未来」やジャトロファ等の活動が、新聞やテレビ等で取り上げられた。本校の特色として広く知られ、「宮崎県産業教育振興会表彰」を受賞し、生徒の自信に繋がった。 ・地域への感謝と恩返しをテーマに最後の即売会として、12月に実施した。平日にもかかわらず約300名の来場があった。 ・社会情勢の影響もあるが、福祉系の就職及び進学については、専門性を活かした進路に結びつけられた。	A	・県産業教育表彰を受賞できたことは日頃の努力の成果だと思う。 ・新聞報道等でも生徒達の取り組みが度々紹介されていた。
	地域との連携	農業関連機関と連携し、インターンシップ事業、福祉施設実習、就農教育の推進	農業関連機関と連携し、インターンシップ事業、福祉施設実習、就農教育を推進した。	A	・インターンシップ、福祉施設実習は、関係機関と連携しながら、例年通り効果的に実施できた。 ・本校生徒職員が担当して、県内の就農希望の農業高校生を集め、関係機関を利用して2泊3日の宿泊研修を実施した。農業や地域環境に対する理解を深めることができた。		

マネジメントサイクル		P	D	C	A	C	A
重点目標	評価項目	数値目標・評価指標	具体的な取組	評定	自己評価	評定	学校関係者評価
					成果及び改善策(課題・反省)		問題点及び改善策
	専門性を活かした資格・検定の取得	・関連する資格検定の受験・取得者40%以上 ・介護福祉士国家試験を全員受験、全員合格	・関連する資格検定の受験・取得者40%以上を目指し、指導した。 ・介護福祉士国家試験を全員受験、全員合格を目指し、長期休業中や放課後課外等、年間を通じて指導した。	B	・食品技能検定3級12名、日本農業技術検定3級2名合格、資格検定取得者は30%台であった。 ・フォークリフト免許取得等の新しい資格に挑戦させることができた。16名取得できた。 ・福祉科は少ない職員体制でも介護福祉士国家試験に昨年度並みに高い結果を出すことができた。		
④部活動・農業クラブ・福祉クラブ活動の振興	農業クラブ	・農業クラブ県大会への全部門挑戦 ・校外での販売実習や開放講座等 ・インターンシップや農業ボランティアの参加活動	・農業クラブ県大会へ参加し、最後まで挑戦させた。 ・校外での販売実習や開放講座等で地域の方との交流を図った。 ・インターンシップや農業ボランティアの参加(坂元棚田清掃等)、地域と連携した活動に取り組ませた。	A	・農業クラブ県大会では、食糧部門と環境部門で3位に入る成績を残した。 ・意見発表やプロジェクト発表は県大会後の管内の大会等でも発表し、生徒達の自信につなげることができた。 ・坂元棚田の活動など、新聞に取り上げられ、生徒の学校外の活動も評価された。	A	・少ない職員体制でよく努力された。 ・学校外の活動にも生徒は積極的に活動していると感じた。
	福祉クラブ	施設実習やボランティア活動	地域に根ざした教育の実践を目指し、施設実習やボランティア活動に取り組みせ、職業観や豊かな人間性を養う取組を行った。	A	・年間を通じて案内されるボランティア活動に、時間をやりくりしながら3年生でも参加した。 ・実習期間以外にもクリスマス会等の施設行事にでかけていき、福祉施設との交流を行った。		
	部活動	部活動をととして自己の鍛錬と個性の伸長を図り、豊かな人間関係を育む。	・最後の大会となる年度であったが、口蹄疫等の影響で活発な活動につながらなかった。	B	・9つの部に、3年生のみで1学期間の活動であった。 ・九州大会等の上位大会への進出もあった。(陸上・柔道・将棋)		
⑤教師力の向上	師弟同行の精神で、「感動」ある教育活動の実践	生徒・職員の図書館利用の促進 体育大会・春日祭等の行事の充実及び活性化 閉校に伴う各種事業の実施	・朝読書に担任・副担任も一緒に取り組み、生徒の読書活動が促進された。 ・体育大会、春日祭、即売会、閉校講演会、遠足等の全校行事を計画的に実施した。	A	・朝読書の定着により、生徒の読書活動が促進され、貸出冊数では県内トップクラスであった。 ・PTA・同窓会と連携しながら、体育大会、春日祭、即売会、閉校講演会、OBと語る会、遠足等の全校行事を充実させる取組を行い、生徒に充実感を味わわせた。	A	・師弟同行で粘り強く指導に当たられた成果が出ている。 ・学校での様子のみでも生徒と先生方関係のよさがわかった。
	教師力と人間力を高め、生徒から信頼される教師	定期テスト期間中に校内研修を実施	定期テスト期間中に校内研修を実施した。	A	・今年度は新教育課程の概要、情報セキュリティ、健康管理、薬物乱用防止等に関して研修を実施した。		
	生徒に「学ぶ楽しさ」を味わわせられる教材研究の工夫	「学ぶことの楽しさ」を主題にした年間2回の研究授業の実施	「学ぶことの楽しさ」を主題にした年間1回の研究授業を実施した。	B	・学ぶ楽しさを実感させるため、自宅学習の習慣化を図り、宅習ノートの提出率が年間平均94.2%であった。 ・研究授業週間を設定し、全員の研究授業を実施した。		
	成績不振者への指導の徹底	定期テスト1週間前の成績不振者指導の徹底	定期テスト1週間前の成績不振者指導の徹底	A	・定期テストごとに不振者指導を徹底し、担任・副担任の協力により該当生徒の学習態度は良好で、成績向上につながった。		

※評定区分 A:期待以上(十分達成)、B:ほぼ期待通り(概ね達成)、C:やや期待を下回る(検討の余地有)、D:改善を要する(不十分)